

日本語学習支援基金～第2次造成6年間のあゆみ・第3次造成が決定、助成開始～▶

日本語指導が必要な児童生徒数が全国で一番多い愛知県では、県と地元経済界などが協力して平成20年度と平成28年度の2回にわたり、「日本語学習支援基金」を造成し、地域社会全体で外国につながりを持つ子どもたちの日本語習得促進と、地域での居場所づくりを進めてきました。昨年度末で第2次造成の基金は終了しましたが、現在の外国につながりを持つ子どもたちを取り巻く状況等に鑑み、第3次造成が決定し、継続されることとなりました。

今回は、令和3年度及び第2次造成基金の6年間の実績をご報告するとともに、今年度から始まりました第3次造成基金の内容についてお知らせします。

◆令和3年度の実績

令和3年度は、49団体86の日本語教室（内、新規2）と外国人学校5校を助成認定し、日本語教室では延べ8,030人、外国人学校では延べ7,304人の児童生徒の日本語学習を支援しました。なお、令和2年度から、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催する日本語教室も助成対象としましたが、その数も20教室に増え、延べ参加児童生徒数も昨年度と比べ、200人ほど増加しました。また、外国人学校4校に、授業で使用するための日本語学習教材（国語の教科書、ドリルなど）を291冊給付しました。外国人学校では、俳句の学習の際に『日本語は難しいけれど 楽しい』と句を作ってくれた子がいたそうです。楽しいと思える学習環境づくりを心掛けていただいている先生やボランティアさんの熱意や努力に感謝いたします。

給付したドリルや教科書で勉強する外国人学校の子どもたちの様子



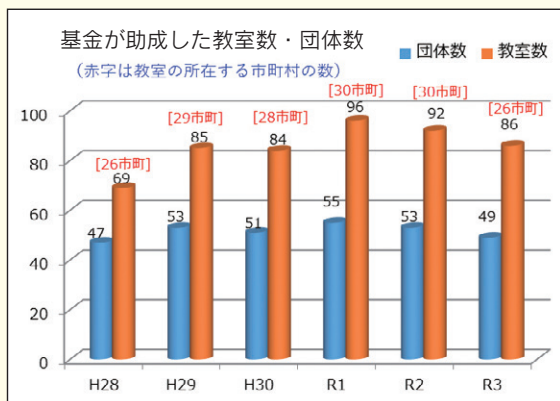
子どもたちからのお礼の言葉▶

す。	む	ち	お
つ	つ	べ	れ
か	ん	ん	い
い	ぎ	つ	の
い	よ	た	こ
け	う	き	と
れ	し	よ	ば
ど	て	う	は
が	い	か	
ん	ま	し	
ば	す。	よ	
っ		ま	
て		い	
い		ま	

◆第2次造成（6年間）＜平成28年度～令和3年度＞の実績

第2次造成を開始した平成28年度から令和3年度までの6年間で、日本語教室に通う延べ57,368人と外国人学校に通う延べ51,370人の外国につながりを持つ子どもたちをサポートしてきました。日本語教室数は多い年には県内30市町村の96教室を助成認定、支援してきましたが、新型コロナウイルスの影響等で、令和2年と3年は減っています。

また基金では、令和2年度まで日本語教室及び外国人学校に通う子どもたちが日本語能力試験に合格した際に、受験料相当額の図書カードを贈呈していました。事業を実施した5年間で日本語教室は延べ279人、外国人学校へは延べ10人に贈呈し、そのうち難易度の高いN1・N2に約3割の生徒が合格しています。さらに、外国人学校へは6年間で、2,152冊の日本語学習教材を給付しました。支援した団体からは、毎年、教室の様子、子どもたちの学習の様子などを報告いただいています。その一部をご紹介します。



☆認定団体からの声☆

- ・教室の卒業生が、大学に受かったことが刺激になり、子どもたちが自分の将来について身近な問題としてとらえるようになってきて、「大学に行きたい」と言葉にするようになった。
- ・大学との連携ができ、ボランティアサークルの学生さんが切れ目なく指導してくださった。楽しく勉強できて、子どもたちもとても喜んでいる。



- ・オンライン授業により、教室に来るのが難しい子どもも学習が継続できた。指導者側も操作に慣れてきて中身の濃い授業を効果的に進められるようになった。
- ・オンライン授業では会話など日本語の学習はできたが、宿題や教科学習は難しいと感じた。
- ・いただいた教材に出てくる日本語を使って、子どもたちが話しかけてくれるようになった。

◆「日本語学習支援基金」第3次造成が始まりました

愛知県と当協会では今年度改めて、地元経済界、企業等と連携・協力して「日本語学習支援基金」(第3次)を造成し、引き続き日本語学習を支える体制づくりを継続していくこととなりました。その理由として、今後もアジア系を中心に子どもの多国籍化や、集住地域以外での増加等が見込まれるなか、地域のNPO等による日本語学習支援が重要な役割を果たしていること、また日本語学習支援により、子どもたちの進路の選択の幅が広がることで、地域の担い手が育ち、豊かで活力ある地域づくりにつながっていくことが挙げられています。

○第3次の事業内容

日本語教室への支援	
①日本語教室運営への支援	外国人児童生徒に日本語を指導する日本語教室に対し、教室の運営に必要な経費の一部を助成します。
②キャリア支援への助成	日本語教室で学習する外国人児童生徒を対象とした、社会的自立に向けたキャリア支援事業の実施にかかる経費の一部を助成します。
外国人学校への支援	
①日本語指導者の雇用助成	外国人学校が雇用する日本語指導者の経費の一部を助成します。
②日本語学習教材の給付	外国人学校が希望する日本語学習教材の購入費用を助成します。

日本語教室と外国人学校への支援という大きな柱はこれまでと変わらず、第3次造成から、新たに日本語教室での「キャリア支援助成」が加わりました。卒業生や先輩から進学や就職について話を聞いたり、講師を呼んで入学や就職試験対策をしたり、進学を希望する学校の見学、企業訪問などを行うことで、より自分の将来に対し明るいビジョンと目標を持ってもらうことが目的です。

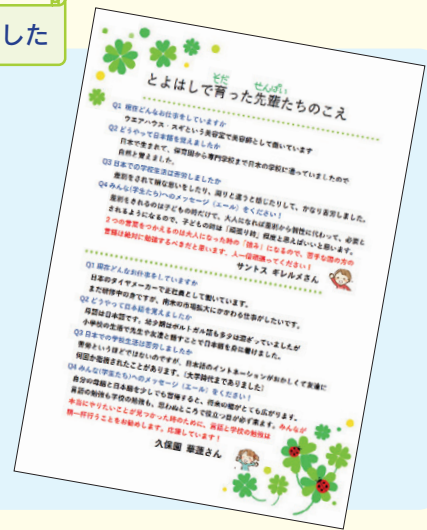
◎ これまでも地域の日本語教室ではこのようなキャリア支援が行われてきました



▲大学を訪問し、大学生の話を聞いたり、一緒に将来のドリームマップを作りました！
[NPO 法人シェイクハンズ]



▲高校生の進路相談、受験対策指導の様子
▶進路相談会で紹介された先輩たちのこえ
[NPO 法人フロンティアとよはし]



～基金へのご支援をお願いします～

日本語学習支援基金は、企業や県民の皆様からの寄付金によって運営されています。ぜひご協力ください。
詳しくはこちら→ <http://www2.aia.pref.aichi.jp/kyosei/j/kikin/kihuboshu30.html>
【問い合わせ先】 日本語学習支援基金事務局 (公益財団法人愛知県国際交流協会)
ご寄付に関すること：総務企画課総務管理担当 電話 052-961-8744 / E-mail somu@aia.pref.aichi.jp
事業内容に関すること：交流共生課共生担当 電話 052-961-1409 / E-mail kikin@aia.pref.aichi.jp

基金の第2次造成にご協力いただいた企業・団体の皆様を下記の URL で紹介しています。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/kyosei/j/kikin/kihushaR3.html>
◇第2次造成にかかる寄付総額◇
109件 77,444,000円 (令和4年3月31日時点)

「相談員のための多文化ハンドブック＝社会福祉編＝上巻」を発行しました▶

当協会では、福祉機関や医療機関、市町国際交流協会等の相談員など、外国人から相談を受けている方々に役立てていただけるよう、「相談員のための多文化ハンドブック」を作成しています。

今回、「社会福祉編」の内容を充実させ、上・下巻とし、3月に上巻を改訂発行しました。上巻では、社会福祉と外国人に関する基礎知識、子育てや仕事、医療に関する相談対応と制度のポイントなどを掲載しています。

冊子は、当協会のウェブサイトからダウンロードすることができます。ぜひご活用ください。

【URL】 <http://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/manual/manual.html>

【問合せ先】 交流共生課 相談担当

電話:052-961-7902 / E-mail:sodan@aia.pref.aichi.jp



「エシカル講座 2022」を開催しました ▶▶▶▶▶

皆さんは、「エシカル」という言葉を聞いて、何をイメージしますか？近年、「エシカル」という言葉自体はよく耳にするので、馴染みのある方もいらっしゃるかもしれませんが、「言葉は聞いたことはあるけれど、よく分からない」「私たちとどんな関わりがあるの？」と思う方もまだ多いのではないのでしょうか。

そこで当協会では6月2日（木）に、一般社団法人エシカル協会事務局長の堀田三佳氏を講師に迎え、「エシカル講座 2022『私たちの選択が未来を変える～今必要とされる、エシカル というものさし～』」を開催しました。講座では、「エシカルとは何か」というベーシックな内容から、実生活に活かせる「エシカル」な取り組みまで学ぶことができました。

前半では、「児童労働」「食品ロス」といった地球上で起きている様々な問題についてお話いただきました。例えば、「食品ロス」について。世界の食品ロスの6割が家庭からの廃棄によるものだそうです。どのくらいの方がこの事実を知っているでしょうか。堀田氏からは、「People care when they know」（人は知れば気にかける）という言葉をご紹介いただき、まずは知ることが大切であると学びました。

その上で気になるのは、このような地球上の様々な課題に対して「私たちに何ができるのか」ということです。その取り組みの例として、「エシカル消費」をご紹介いただきました。「エシカル消費」とは、「人・社会・地球環境に配慮した消費やサービス」のことで、「フェアトレード商品を買う」・「地産地消」など多くの種類がありますが、唯一の正解はないそうです。「各々が暮らしの中で何を大切にしていきたいか」を軸に、毎日の買い物で自分の選んだものが、「誰か」の状況を改善したり、温暖化に歯止めをかけたりする助けにもなる、毎日の買い物は私たちの意思表示である、と教わりました。また、どういったものがエシカルであるかを見極めるポイントとして、認証ラベルやマークに注目するという事も教えていただきました。今度買い物に行く際は、皆さんもぜひチェックしてみてくださいね。

エンゲージド・エシカルの実践

- ✓ 周囲の人と地球温暖化などについて話す
- ✓ 自分の職場で環境対策をする
- ✓ 地域の取り組みや勉強会に（を）参加する/主催する
- ✓ 政治家や地元議員と意見交換する
- ✓ 選挙に行く

▼ 私たちにできる「エシカル」な取り組みについて紹介される講師



質疑の時間では、「SDGsに関して、小さな子どもやその保護者に関わるような活動をしている保育園などがあれば教えていただきたい。」といった質問をいただき、「ドイツやスウェーデンでは幼稚園での取り組みが活発」であるということや、「保護者を巻き込む際は、将来的なメリットを伝えることが必要で、一番は楽しんで取り組めること」といったアドバイスをいただきました。

講座終了後、参加者からは、「エシカル消費の実践について、様々なアプローチがあることを知れて良かった」「今後エシカルについて深く知り、行動に移していきたい」などの声をいただきました。今回の講座をきっかけに、今後も「エシカル」に関心を向けて生活していただければ嬉しいです。